

クワシロカイガラムシ（第3世代幼虫）の 防除対策について

令和8年8月27日

埼玉県茶業研究所

今年のクワシロカイガラムシ（以下「クワシロ」）第3世代ふ化幼虫の発生ピークは平年より10日早い（青梅アメダス）見込みです。現地茶園での温度データも同様に、9月中～下旬になる見込みです。全体的には発生量は少ないですが、茶園によって白い雄まゆや雌成虫が多く確認され、坪枯れが認められる茶園もあります。下記の情報を参考に適切な時期に防除対策を実施しましょう。

防除適期の判断が難しい場合や、さやまかおり、さやまあかりなどで被害が出ている場合はクワシロではない場合がありますので、直接またはメールなど（難しい場合は電話、FAXで。文末に表記）でお気軽にご相談ください。

1 有効積算温度による推定

青梅アメダスと各地点の茶株内温度から推定したクワシロの防除時期は以下のとおりです。防除適期はふ化幼虫の推定ピークの翌日から4日後程度が目安です。

調査地点	防除適期 ()内は幼虫ふ化の推定ピーク
所沢市（東狭山ヶ丘） 狭山市（笹井）	9月15日～18日（9月14日）
入間市（野田） 入間市（上藤沢B）	9月16日～19日（9月15日）
入間市（木蓮寺）	9月18日～21日（9月17日）
入間市（上藤沢A）	9月19日～22日（9月18日）
入間市（茶研・上谷ヶ貫）	9月22日～25日（9月21日）
青梅アメダスデータ	9月15日～18日（9月14日）
所沢アメダスデータ	9月13日～16日（9月12日）

2 防除時期のポイント

台風や降雨等により防除適期を逸することも考えられますが、発生が目立つ場合は、防除適期から数日遅れても防除の実施が大切です。なお、雄まゆ、雌成虫の介殻の発生が枝幹に散見される程度の発生であれば、今回の防除を省略しても次世代の発生が少ない（周辺からの侵入等の要因を除く）ことがわかっています。

3 防除対策のポイント

（１）類似の被害様相に注意しましょう

現在、クワシロに類似した白い虫（アオバハゴロモ幼虫の寄生枝、ナシシロカイガラムシ、チュウゴクアミガサハゴロモ幼虫）の被害が見られます。また、秋整枝の前後の時期にはチュウゴクアミガサハゴロモの産卵痕が発生します。クワシロと間違えて不必要な防除をしないように注意しましょう。（別添 注意喚起資料参照）

（２）３月にプルートMCを散布したほ場

８月以降、雄まゆ、雌成虫の介殻が多く見られるほ場では、散布むらによる効果の低下や、周辺からの新たな侵入が考えられます。防除対策を検討しましょう。

（３）プルートMCを散布していないほ場

天敵に影響の少ないアプロードエースフロアブルまたはコルト顆粒水和剤を農薬使用基準に従って散布します。散布に当たっては茶株内の枝幹に十分に薬液がかかるよう丁寧に実施しましょう。ジノテフラン粒剤の土壌混和处理も可能です。摘採時期や同一成分の使用回数に注意しながら、各世代を対象として使用すると密度抑制効果が高まります。ただし、欧州方面への輸出予定している茶園やその周辺では使用しないようにしましょう。

適期より対策が遅れた場合は、薬剤散布直後、または単独で 40kg/10a 相当量の米ぬかやナタネ粕を茶株の枝幹に付着するように処理するとクワシロ抑制効果があります。

マシン油乳剤の散布も適期を逃した場合の対策として実施可能です。

農薬を使用する際には、必ず使用農薬のラベルを確認しましょう

連絡先: 埼玉県茶業研究所
農業革新支援担当 小俣
TEL: 04-2936-1351
FAX: 04-2936-2891
E-mail: omata.ryosuke@pref.saitama.lg.jp